

象が空を

沢木耕太郎

Sawaki Kohtaro



象が空を

Sawaki Kohuro

沢木耕太郎

1982

1992

文藝春秋

著者略歴

- 1947年 東京に生まれる。
 1970年 横浜国立大学経済学部卒業。
 1973年 「若き実力者たち」(文藝春秋刊)
 1976年 「敗れざる者たち」(文藝春秋刊)
 1977年 「人の砂漠」(新潮社刊)
 1978年 「テロルの決算」(文藝春秋刊・第10回大宅壮一ノンフィクション賞受賞)
 1979年 「地の漂流者たち」(文春文庫)
 1981年 「一瞬の夏」(新潮社刊・第1回新田次郎文学賞受賞)
 1982年 「路上の視野」(文藝春秋刊)
 1984年 「バーボン・ストリート」(新潮社刊・第1回講談社エッセイ賞受賞)
 1986年 「馬車は走る」(文藝春秋刊)、「深夜特急 第一便」「同第二便」(新潮社刊・第5回日本冒険小説協会大賞特別賞受賞)
 1988年 「キャバその青春」「キャバその死」「ロバート・キャバ写真集」(編訳・文藝春秋刊)
 1989年 「王の闇」(文藝春秋刊)
 1990年 「チェーン・スモッキング」(新潮社刊)
 1991年 「彼らの流儀」(朝日新聞社刊)
 1992年 「深夜特急 第三便」(新潮社刊)

象が空を

一九九三年十月三十日 第一刷

著者 沢木耕太郎

発行者 堤 堯

発行所 株式会社 文藝春秋

東京都千代田区紀尾井町3-1-23
 電話 東京(三三六五)一二一一

郵便番号 一〇二

印刷所 精興社
 製本所 加藤製本

万一、落丁乱丁のある場合は送料当方負担でお取替致します。
 小社営業部宛お送り下さい。

目 次

第一部 夕陽が眼にしみる

* 歩く

改札口

15

私の上海

19

体の中の風景

23

かげろうのような地図

26

街の王、泥の子

29

儀式

31

群れの行方

34

瘴気のような

37

駄馬に乗って

39

点と面

51

旅のドン・ファン

53

異国への視線

55

第二部 水路をつなぐ

*会
う

兄貴分

オーケーよ

知恵の木

幻の「西四十三丁目で」

言葉の湖に水路をつなぐ

使い古された言葉でなく

一期一会なんて言わないで

理解しつくしたいという情熱

純白の濁り

女優 吉永小百合

秋のテープ 美空ひばり

第三部 苦い報酬

*読む

父と子 大宅壮一

歴史からの救出者 塩野七生

一点を求めるために 山口瞳

放浪と帰還 藤原新也

無頼の背中 色川武大

事実と虚構の逆説 吉村昭

彼の視線 近藤紘一

苦い報酬 T・カポーティ

切り取る眼 E・ヘミングウェイ

運命の受容と反抗 柴田錬三郎

正しき人の 阿部昭

最初の十冊、最後の十冊

稀な自然さ

愛の名のものと復讐

人に寄り添う

二つの驚き

命運を握れない苛立ち

死ぬ理由

野心と成果

第四部 旗門と逸脱

*書
く

そこから始まる

死ぬ、生きる

「情報」の洪水の中で

私だけの教科書

255 253 249 247

242 237 236 234 231 229 228

逆恨みの日々

一本のテロップ

私にわかっていることは

敗れざること、敗れざること

してやられる

幼児のように

四千二百五十七頭の象

やがて終わる休暇の前に

短文の練習、ふたたび

夕立と幽霊

孤寒

記憶と資料

俺たちの本

おお、ムラマード！

場の魔術

スクープ

放蕩息子の逸脱

模倣不能

第五部 不思議の果実

*見る

挽歌はもう歌えない

自己の再生という幻想

さらさらとした悪夢

映画のための風景

揺れて、揺れて

三枚の写真

恋と呼ばずに

361 349 344 340 335 330 327

321 320 312 309

カウント・ダウン

持てる者と持たざる者と

夢見た空

第六部 勉強はそれからだ

* 暮す

ラジオからの声

不意の声

体の奥からの声

文章の中の声

「奇妙なワシ」をめぐるって

深入りできなかった仲

コロッケと豆腐と人魚

坂道

459 457 454 451 449 447 445 443

410 395 370

勉強はそれからだ

普通のマティーニ

振り向けば老人

自分を超える

大人になるということ

気分をかえて

ごめんなさい

王の不在

未来へのダイヤル

行きすぎる

盗電

夢の休日

酒場を出てから

春の背広

あとがき

装画 装幀
門坂 伊勢功治
流

象が空を

第一部

夕陽が眼にしみる

* 歩
く

